

## 『転倒転落防止に向けた医療療養病棟での取り組み ～情報共有とケア時間確保の重要性～』

○野内 貴幸 須寄卓也 宮崎良子 加藤寿子 大宮 寛美  
林 文月 岸下結花 森松 静 進藤 晃

### 【はじめに】

当医療療養病棟は、医療区分 2・3 が 88 ～92%、平均要介護度が 4～4.5 と、医療介護ケアニーズが高く、多重並行業務をこなすことに精一杯な状況が続いていた。そのような中、病棟内での転倒事故防止策に関する統一ケアの提供ができぬまま転倒事故発生件数が増加していた。そこで日々の業務を見直し対策を検討した結果、転倒事故件数が減ったのでその取り組みを報告する。

### 【方法】

- ・業務改善による時間の獲得
- ・転倒事故に関するカンファレンス開催と前後の事故発生件数の比較
- ・職員の意識調査

### 【結果】

- ・日常業務の中の「無駄な時間」を探し削減することができた
- ・カンファレンス開催とその記録物を利用したことで転倒防止に関する情報共有できた
- ・転倒事故が減った
- ・職員の KYT 意識が高まった

### 【考察】

業務改善の結果生まれた時間を患者安全確保の時間へと充てることが出来た。また、KYT の意識が高まり更なる事故防止の風土醸成が期待できると考える。

# 転倒転落防止に向けた 医療療養病棟での取り組み

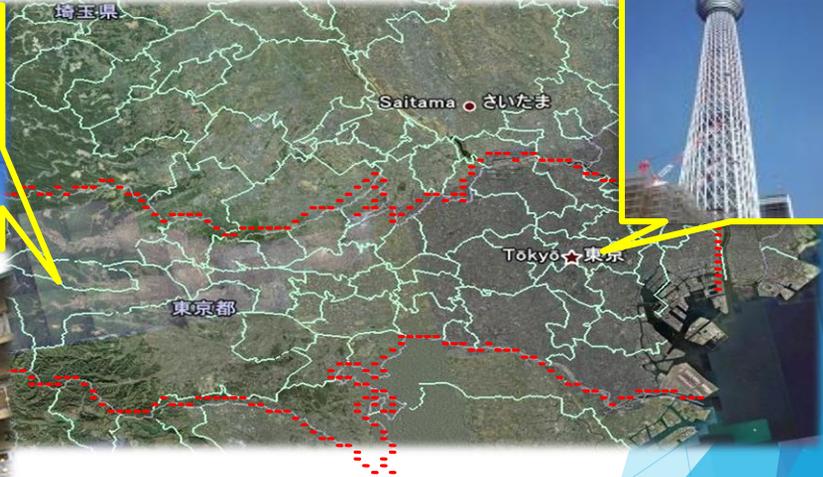
～情報共有とケア時間確保の重要性～

医療法人財団利定会 大久野病院



発表者 野内 貴幸  
 共同演者： 須崎 卓也・宮崎 良子・加藤 寿子・大宮 寛美  
 林 文月・岸下 結花・森松 静・進藤 晃

## 大久野病院の紹介



病棟	回復期リハ病棟	1病棟	50床
	医療療養病棟	1病棟	50床
	介護療養病棟	1病棟	58床
			計158床

## <はじめに>

当院医療療養病棟：50床

医療区分2・3：88～92%

平均要介護度4～4.5

医療介護ケアニーズ高い → 多重平行業務をこなすことで精一杯  
転倒・転落事故防止策に関する統一ケアの提供ができていない

↓  
事故発生件数増加

業務の見直し

→ 時間の確保  
カンファレンスの開催

→ 転倒転落事故発生件数減少

## <方法>

- 職員の意識調査
- 業務改善による時間の獲得
- 転倒事故に関するカンファレンス開催と前後の事故発生件数の比較

平成30年4月～開始

## 職員の意識調査

- ① 始業時に各患者様のADL状況に関する情報収集をしているか？
- ② 転倒・転落防止策を把握できているか？
- ③ 転倒・転落防止策は患者様の個別性を活かした計画になっているか？
- ④ 患者様のADL変化に伴い、転倒・転落防止策はタイムリーに立案・追加・修正されているか？

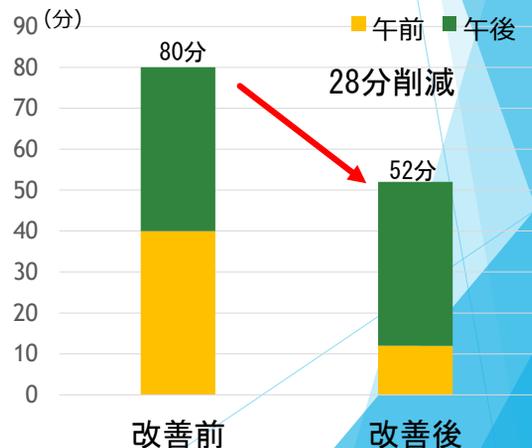


①～④の実施時間が確保できない

無駄な業務・無理な業務を聴取し業務改善を行う

## 業務改善項目 ①

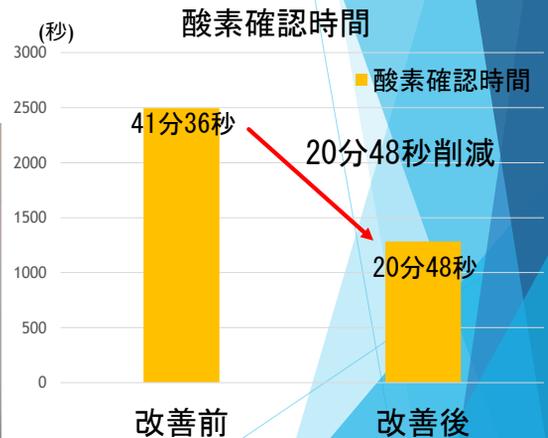
- ▶ 膀胱留置カテーテル畜尿バック内の尿破棄  
午前は離床の機会が多い方や尿量の多い方に限定



## 業務改善項目 ②

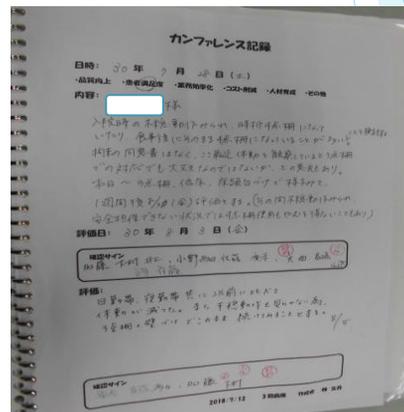
### ▶ 酸素流量の確認時間

ダブルチェックによる職員2人で1回1分18秒  
→シングルチェックへ変更



## カンファレンスの開催

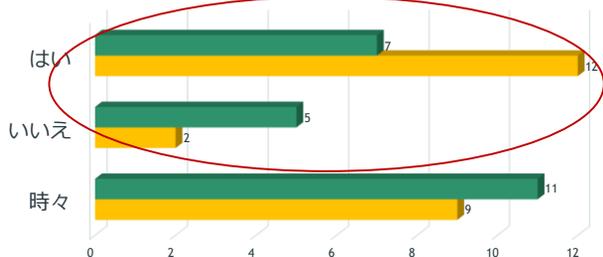
業務改善項目①と②を削除し作り出した時間で  
転倒転落やKYTに関するカンファレンスを開催。



# 結果1 業務改善前後の職員の意識調査

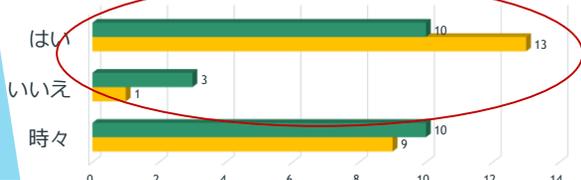
## ①ADLの情報収集

■ アンケート前 ■ アンケート後



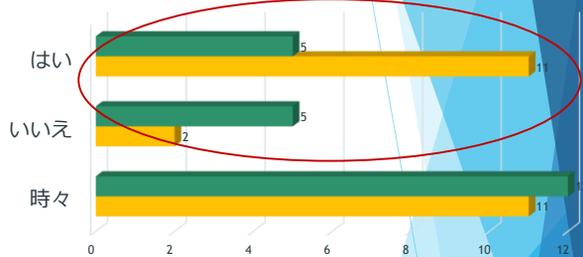
## ②転倒転落対策の把握

■ アンケート前 ■ アンケート後



## ③個別性を活かした計画

■ アンケート前 ■ アンケート後



## ④タイムリーに情報を修正しているか

■ アンケート前 ■ アンケート後

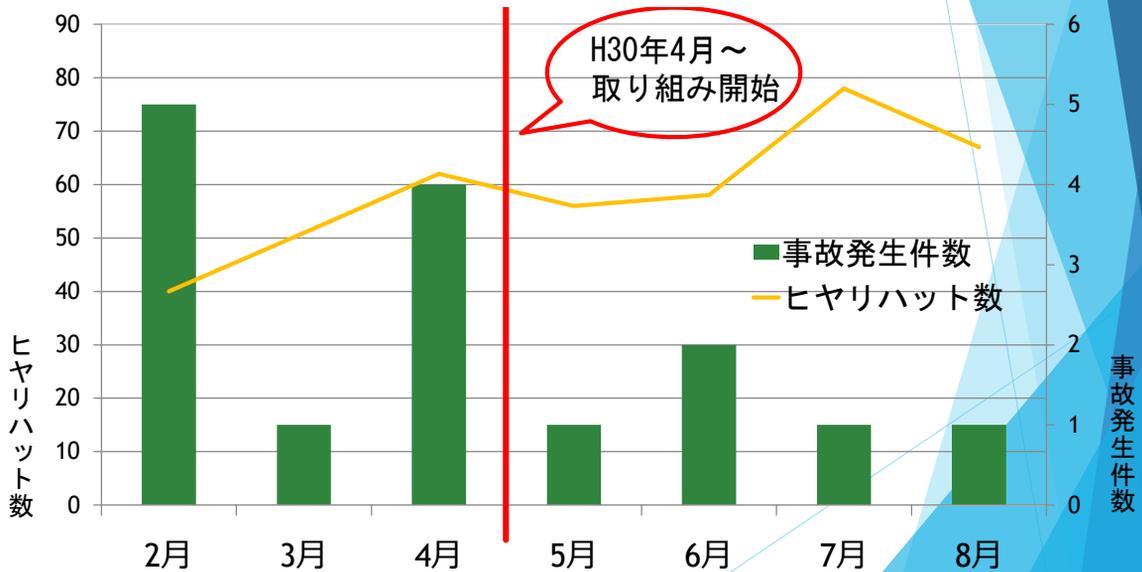


## スタッフの意識変化

- ・ 周囲の環境に目を配れるようになった ⇒ KYT効果
- ・ 気付かなかった危険要因を知ることができ、  
普段の業務やラウンド中も意識できるようになった。  
⇒ 情報可視化効果
- ・ 転倒や転落に関し、看護師と介護士が話しやすい環境が整い  
再発防止策を考える機会が増えた  
⇒ カンファレンス効果

## 結果2

### カンファレンス開催前後の事故発生件数とヒヤリハット数



### <考察>

日常業務の中の「無駄」を探し削減した結果、時間が生まれ

- カンファレンス開催とその記録物による転倒防止に関する情報共有できた
- 転倒事故の減少と職員のKYT意識の高まりに繋がった

マンパワーが少ない中でも患者様にとって重要度の低い時間の整理により患者様の安全性を高めることは可能であると考え

また、KYTの意識が高まり更なる事故防止の風土醸成が期待できる

ご清聴ありがとうございました

